

# 天小だより

命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校

令和7年11月7日

伊丹市立天神川小学校

校長 徳田 達郎 【天小ホームページ】



## 満員のアイフォニックホールで人権作文を発表

11月1日(土)「差別を許さない都市宣言 制定記念市民集会」が開かれました。人権作文の小学生代表に選ばれた天神川小6年生の児童が、満員のアイフォニックホールで、思いを込めて丁寧に人権作文を発表しました。

伊丹市立天神川小学校 六年

いのちの重さ

私が生まれた時、体重はとも少なくて、まわりの人達はとも心配したそうです。でもお母さんは、私をだいたった時、とても重いと感じたと言っていました。最初は、小さな動物や人間や生きものでも、最初は、小さな生きものでもその命はそれだけで長く生きるものがあれば短いいのちの生きものもありました。

私は、いのちは長い方がずいといと感じていました。長い方がいろいろな経験ができるし、好きな場所やいろいろな人と会うことができると思います。でも最近、少し考えが変わりました。

短いいのちであって、その、や生きものが、どんな人生を歩んでいったかが大事なのかなと感じます。

最近テレビで、小さいころから病気でずい

と入院生活をしていて、子ども番組がありました。病院の中の学校に通っていて、学校にいた時間が一番楽しいと言っていました。学校に行くと、世界にも学校に行きたくても家の手伝いで学校に行けない子どもたちが、ばいばいすることを知りました。

私は自分がいまでいることをもう一度ふりかえることが大切だと思いました。勉強もそうですが、友達とのコミュニケーションや家の手伝いなど、いろいろなことに興味があります。それはいのちがあるからできることです。

お母さんかとても重いと感じた言葉は、どんないのちでも重くて、いろいろな人生があることを意味しているのか、と感じています。

いのちの重さは、生きていく中で、考えていくテーマです。自分を大切に生きていく喜びを感じることができればと思います。

ふだんあまり考えないことは、たいてい、いのちのおもさについてまた家族と話合っています。